

補助事業番号 ①9公-1

補助事業名 平成19年度 世界少年野球大会の開催 補助事業

補助事業社名 財団法人 世界少年野球推進財団

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

世界少年野球大会は、日米のホームランキング王貞治、ハンク・アーロンの両氏が、正しい野球を全世界に普及・発展させるとともに、世界の少年少女たちの国際交流を通じて相互の理解を深め、世界平和と健全育成の促進に寄与しようとの趣旨で開催しています。1990年に第1回大会をアメリカ・ロサンゼルス市にて開催して以降、毎年アメリカ、カナダ、日本で継続して開催してきました。平成19年度に開催したプエルトリコ大会は第18回大会となります。

本年度の大会は、プエルトリコのサリーナス市、カロリーナ市、カグアス市、グアイナボ市、ポンセ市を会場として、世界14か国・地域から169名の子どもたち(大会開催時に満10歳、11歳の児童)が野球教室に参加しました。

この大会では少年・少女が約1週間の合宿生活をし、午前中は野球教室で一緒に野球を学び、午後には交流行事で参加者同士はもちろん、地元の子どもたちなどと友情と信頼の輪を広げていきました。

言葉の壁や人種、国境を越えて友情の芽を育むなど、国際親善にも大きな成果を上げています。

(2) 実施概要

〈大会名称〉

第18回世界少年野球大会・プエルトリコ大会

〈大会テーマ〉

「Changing Lives Through the Magic of Baseball」

「野球の魔法で新しい自分を見つけよう！」

〈実施内容〉

1. 国際野球連盟(IBAF)の選任コーチによる野球教室を行いました。世界14か国・地域から参加した少年・少女がプエルトリコに集い、8グループに分かれ野球の基本を学びました。
2. 開催各市の地元住民と交流行事を行いました。

〈期日〉

平成19年7月29日(日)～8月6日(月)

〈野球教室会場〉

7月31日(火) サリーナス市 Alberge Olimpico Baseball Park
8月 1日(水) カロリーナ市 Roberto Clemente Memorial Park
2日(木) カグアス市 Idelfonso Sora Morales Baseball Park
3日(金) グアイナボ市 Guaynabo Baseball Stadium
4日(土) ポンセ市 Paquito Montanel Stadium
5日(日) サリーナス市 Alberge Olimpico Baseball Park

〈参加者宿舎〉

サリーナス市 Albergue Olimpico

〈参加国・地域〉

オーストラリア、ブラジル、カメルーン、カナダ、チリ、チェコ、ドミニカ、フランス、メキシコ、
ニカラグア、スペイン、アメリカ合衆国、日本、プエルトリコ

以上14か国・地域

(日本20名、プエルトリコ79名、米国15名、その他国・地域より各5名、合計169名)

〈日程〉

月 日	行 事
7月29日(日)	各国少年少女到着、受付、登録、用具配布
7月30日(月)	用具配布、 IBAF コーチによるシャペロン、ホストへのオリエンテーション
7月31日(火)	野球教室 No.1 (サリーナス市 Alberge Olimpico Baseball Park) 交流行事 ウエルカムパーティー
8月 1日(水)	開会式、記念撮影 野球教室 No.2 (カロリーナ市 Roberto Clemente Memorial Park)
8月 2日(木)	野球教室 No.3 (カグアス市 Idelfonso Sola Morales Baseball Park) インターナショナルチルドレンディ No.1
8月 3日(金)	野球教室 No.4 (グアイナボ市 Guaynabo Baseball Stadium) インターナショナルチルドレンディ No.2
8月 4日(土)	野球教室 No.5 (ポンセ市 Paquito Montanel Stadium) 交流行事 グッドウィルパーティー (ポンセ市 Serralles Palace)
8月 5日(日)	野球教室 No.6 (サリーナス市 Alberge Olimpico Baseball Park) 閉会式 (サリーナス市 Alberge Olimpico)
8月 6日(月)	各国少年少女帰国

2. 予想される事業実施効果

14か国・地域から参加した子どもたちが、本大会において正しい競技ルールによる野球の知識と技術や楽しさを体得して帰国したことで、将来的には自国・地域内における野球の普及と発展に中核的な役割を果たすものと期待される。

本年度の開催地であるプエルトリコは、故ロバート・クレメンテ選手をはじめメジャーリーグで多くの選手が活躍してきた野球立国である。プエルトリコ国内リーグでプレーした経験もあるハंक・アーロン氏が本大会のスポークスパーソンとして凱旋したことで、地元マスコミによる報道が盛んに行われ、広く一般にも本大会の野球普及活動が注目された。本大会が開催地において、更なる野球の普及・発展と子どもたちの健全育成、並びに国際交流に寄与したことは、大きな成果であったと考える。

また、大会参加者に参加者アドレス帖等を配布したことにより、大会を通じて育まれた友情と親善の輪が、メール等のやりとりや、相互に訪問することによって今後とも継続、発展していくことも期待出来る。

本大会は本年度で18回目の開催となり、参加国・地域は84、参加延べ人数は4207人となる。2006年に開催された第1回ワールド・ベースボールクラシックでは、第2回世界少年野球大会・千葉大会の参加者であったセペタ選手がキューバ代表として日本代表と決勝を戦った。今年開催される北京オリンピックでも本大会経験者が活躍することが期待され、引き続き本大会から世界に通用する選手が育っていくものとする。

国際野球連盟（IBAF）からは本大会が長年に渡り野球の国際的な普及・発展に多大な貢献をしていることに対して敬意が表され、今後とも、本大会の成功の為に協力を惜しまないと言われている。野球のオリンピックでの復活に向け、本大会の意義が国際的に高まっているものとする。

加えて、青年海外協力隊員や海外各国で開催されている少年野球大会関係者より、過去に本大会に参加した子供達が当時支給されたTシャツや野球用具を使い、いまだに野球を続けている姿が数多く見られるとの報告ももらっている。

3. 本事業により作成した印刷物等

特になし

4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名：財団法人 世界少年野球推進財団（ザ・ワールド・ユース・ベースボール・プロモーション）

住所：102-0074

東京都千代田区九段南4-2-10 小林ビル2階

代表者：理事長 王 貞治（リジチョウ オウ サダハル）

担当部署： 海外担当（カイイタウトウ）

担当者名： 飯田 邦雄（イイダ クニオ）

電話番号： 03-5212-4466

F A X： 03-5212-1189

E - m a i l： wcbf@wcbf.or.jp

U R L： <http://www.wcbf.or.jp>